

■平成 28 年度「白鷹町史談会文化財めぐり（研修旅行）」の御案内

本年度の「白鷹町史談会文化財めぐり（研修旅行）」を下記のように開催します。本年度は「鶴岡市・酒田市近郊の文化財めぐり」ということで計画しました。市街地から少し離れた地域で、名前は聞いたことがあるが行ったことがないという所をピックアップしてみました。こぞって御参加ください。

鶴岡市・酒田市近郊の文化財めぐり

- 1 期日 平成 28 年 11 月 10 日(木)
午前 8 時出発 (7 時 50 分集合)
午後 6 時帰着 (予定)

2 見学場所

①黒川能の里「王祇会館」

(収藏品例)



紅地蜀江文黄緞狩衣
(べにじしよっこうもんおうどんかりぎぬ)
(国指定重要文化財/土産所有)

藍紅紋紗地太極図印金狩衣
(あいべいにもんしやじたいきよぐずいんさんかりぎぬ)
(国指定重要文化財/下産所有)

重要無形民俗文化財「黒川能」を広く紹介する展示機能と、イベントや研修など地域住民の交流や生涯学習の機能を併せ持つ施設です。

展示機能では、毎年 2 月 1 日から 2 日夕方まで夜を徹して行われる王祇祭の稚児舞「大地踏」を実物大の人形で再現しているほか、視聴覚室では「王祇祭」「黒川能の 1 年」「水焰の能と蠟燭能」「豆腐祭 — 昭和 41 年—」の 4 本の番組を大型スクリーンで見ることがもできます。(HP より)

②松ヶ岡開墾場

松ヶ岡開墾場は、明治維新後、庄内藩士たちが拓いた緑豊かな大地として、国指定史跡として指定を受けております。その中に瓦葺上州島村式三階建の蚕室が五棟現存

し、一棟が修復されて松ヶ岡開墾記念館となっています。記念館周辺には、食事処や庄内の米造り用具収蔵庫、庄内映画村資料館などもあります。

◎松ヶ岡開墾記念館

- 1 階/開墾、農業、蚕糸関係資料を展示。
- 2 階/開墾士の末裔であった田中兄弟が収集した全国の土人形、土鈴など郷土玩具コレクション約 25,000 点を展示。(HP より)

③松山歴史公園

昭和 57 年 5 月に開園し、松山藩としての歴史を持つ松山地区の歴史と文化を継承し、創造する交流拠点で、山形県指定文化財「松山城大手門」をはじめ、茶室「翠松庵」や郷土文化保存伝承施設「松山文化伝承館」などがあります。

このほかにも、勤王の志士川俣茂七郎の顕彰碑のほか、篤志家齋藤元経「愛山頌徳碑」、そして幕末・明治と松山の礎を築いた松森胤保の胸像もあります。

また、園内では、4 月下旬に桜、5 月上旬にはツツジ、そして 6 月下旬にはスイレンが咲き、季節の花も見どころの一つです。(HP より)

3 参加申込み

- ・会費 1,500 円
- ・〆切日 10 月 31 日(月) 17:00
- ・申込先 (史談会事務局)
白鷹町教育委員会
生涯学習・文化振興係 竹田
TEL 0238-85-6146 (直通)
FAX 0238-85-2183
- ・集合場所 白鷹町中央公民館前

■「獅子舞シンポジウム」

「我が家のお宝展」実行委員会が主催した「獅子舞シンポジウム」が開催されました。このシンポジウムは白鷹町史談会が後援していましたので報告します。

白鷹町の獅子舞は、「七五三の舞」といって、とても特徴的なものであると聞いています。

「我が家のお宝展」で幾つかの獅子頭が展示されることになり、このシンポジウムをあわせて開催することになったことは前号でお知らせしたとおりです。



- 1 期日 平成 28 年 7 月 30 日(土)
- 2 時間 午後 2 時から午後 4 時まで
- 3 場所 白鷹町文化交流センター
「あゆーむ」文化伝承室
- 4 内容
 - I 獅子舞の歴史と種類
「獅子舞の歴史」 江口儀雄氏
「白鷹町の獅子舞について」 荒川一美氏
 - II 獅子舞の実際について
「鮎貝八幡宮の獅子舞」 小林 正氏
「荒砥八幡宮の獅子舞」 芳賀康雄氏
「浅立諏訪神社の獅子舞」 高橋芳志雄氏



町内や町外の方々、あるいは東北芸術大学の学生さんなど多くの方々に御参加いただき、大変盛況でした。

■湯殿山への道のり（その4）

伊藤 隆

掲載する写真は私（伊藤）が撮ったもののほか、丸川桂一郎さん、布施範行さん、志田菊宏さん、高梨みささん、江口儀雄さん、木村さんから提供していただいております。

1 2 時 3 5 分 玄海を出発、いよいよ石跳

川を辿り装束場に向かって最後の登りとなる。みな昨日からの疲れもピークに達しているはず、最後の力を振り絞ろう。ここからは石の道になっている。上手に石を道に並べ、石の上を歩くようになっている。すべて人力で、大変な作業であったろうことが偲ばれる。「懺悔懺悔、六根清浄、御山繁盛、家内安全」など、掛念仏を皆で唱えながら登る。

岩魚の禁猟区となっていたが、魚影を見ることはなかった。森林限界を越え気温も低下、風が強くなってきた。布施さんが先頭を切って導いてくれる。風雨のなか稜線に着く。玄海からここまで誰にも会わなかった。

ここには昔小屋があり、汚物は大雨の時沢に流したもんだと聞く。そういえば30年位前の山小屋も、シーズンオフになるとそうして処理していた光景を見たことがある。バイオトイレなど無くヘリでの運搬も無理な場合、どこでも「三尺流れれば水清し」の原理でそうしていたのだろう。

1 4 時 4 5 分装束場に着くと月山側からドヤドヤと白装束の修験姿の方が沢山下りてくる。にわかに騒がしくなる。「渋滞するといけないから降ろう」と、休憩もそこそこに急な下りにかかる。高橋君のペースが落ちてきた。我々も限界が近いと思う。気力で月光坂を下り湯殿を目指す。鉄梯子の金月光、急な沢沿いの水月光を慎重に下りる。

1 6 時ちょうど、遂に湯殿山神社に全員到着する。参拝料500円を納め、お祓いを受け湯殿に参拝、志田宮司の音頭で三山拝詞を唱和する。「ああやに ああやにくすしきたうと ゆどののみやまの かみのみまえを おろがみまつる」湯殿山神社の御神体の前で頭を垂れ、ここまで来られたことに胸が一杯になった。山歩きでは経験のない足のマメにお湯が滲み、参拝成功を実感する。

御札を受け金剛杖に記念の焼き印を押して貰う。西川、鶴岡のみなさんも道智道を通っての参拝は念願だったそうで、大変喜んでおられた。三浦さんが初参拝だったのには「えーそうだったの」とみんな驚いて

おられた。



帰りはシャトルバス片道200円、大鳥居前で記念撮影し、丸川裕一郎君の迎いの車で帰途につく。布施さんらは宮司さんの奥さんが迎えに来られていた。荒砥着は7時であった。

今回の同行者中、布施さんは古希、小野寺さんや茂木さんは三つ位上だなとあとで聞く。しかしながらみな六十里越えや出羽三山の現役の案内人だそうで、また志田宮司に至っては西川町山岳遭難捜索隊長で、天狗、狐穴、竜門、日暮沢の各山小屋の管理をされておられ、年間100日以上山に入られておられるそうだ。みなさん達者なのも当然と納得する。

今回の参拝の成果は、当時を体験できたこと、歩ききった達成感もありますが、道智道を通じて西川町、鶴岡市の方々と知り合いになれたことかなと思います。

(次号へ続く)

■「知のサロン in あゆ一む」が 開催されました。



これは本会の事業ではありませんが、会長の丸川さんや前会長の江口さんが中心になっている会が主催する『忘れられた詩人の伝記 父・大木惇夫の軌跡』（平成 27

年度読売文学賞「評伝・伝記賞」受賞 大木惇夫は荒砥高等学校の校歌の作詞者)の著者である宮田毬栄さんを迎えた会が9月29日(木)に開催されました。

会員の方々、荒砥高校関係者、その他町内外から多くの方々がおいでになり、午後7時から午後9時30分過ぎまでの長時間にわたった内容の豊かな会でした。

■うきたむ学講座について

標題の講座が白鷹町で開催されます。

特別講座

平成28年10月29日(土) 13:00～

白鷹町中央公民館

講義題

「野仏に秘められたものPⅡ」

平吹 利数氏

「塩田行屋の仏像とその由来」

宮本 晶朗氏

主催・共催

県立うきたむ風土記の丘考古資料館

うきたむ学講座実行委員会

間もなく、チラシが教育委員会へ来るそうです。

詳細は下記にお問い合わせください。

県立うきたむ風土記の丘考古資料館

〒992-0302

東置賜郡高畠町大字安久津 2117

TEL. 0238-52-2585

e-mail:

122@town.takahata.yamagata.jp

info@ukitamu.pupu.jp

■平成 28 年度フォーラム「白鷹丘陵の歴史と文化」の開催について

標記のフォーラムの案内を頂きました。

お知らせします。

- 1 日時 11月26日(土) 午後1時～
- 2 会場 山形市長谷堂
本沢コミュニティセンター
- 3 内容 上山郷土史研究会・山辺町郷土史研究会・本沢郷土研究会などの研究発表

4 参加申込

〆切 11月15日(火)

後藤禮三氏
023-664-6372

■会誌『史談』28号「史談会60周年記念誌」の原稿を書いてください

前号でお知らせしましたが、会誌『史談』28号を「史談会60周年記念誌」として発行します。会員の皆さんは原稿を書いてください。

- ①研究発表（写真なども含め16,000字ぐらいまで）
- ②思い出すこと、これからのこと、会に期待すること、会員との思い出など自由に（400字ぐらい）

〆切は11月30日（水）です。個別にお声がけもしますが、それと関わりなく守谷までお届けください。

メールでもかまいません。

moriya-eiichi@nifty.com

なお、記念事業は下記の通りです。

- ①日時 平成29年2月18日（土）
午後1時から
- ②会場 荒砥地区コミュニティセンター
- ③内容
 - ・記念式
 - ・記念シンポジウム
「鮎貝の歴史と文化（仮題）」
平吹利数氏 渋谷敏己氏など
 - ・祝賀会

■東北民俗の会10月例会について

標記の会で、白鷹町のことが発表されます。ちょっと遠いですが、御案内します。

- 【日時】 2016年10月15日（土）
午後1時30分～
- 【会場】 仙台市民会館B1F 第一教養室
（仙台市青葉区桜ヶ丘公園4-1）
- 【発表】 佐々木 竜郎 氏
「土葬墓の現在～山形県西置賜郡白鷹町の事例を中心に～」
鎌田 成子 氏
「時空を超えて辿る足跡
～仙台三十三観音巡り～」
- 【問合せ先】 東北民俗の会事務局
庄司一平

E-mail : tohokuminzoku@yahoo.co.jp
HPaddress : http://tohokuminzoku.com/

■葛布（くずふ くずぬの かつぶ）のことなど

8月24日（水）から8月28日（日）まで大井川葛布ワークショップに参加してきました。老後の生活を安定するために織物を始めようということではありません。江戸時代までは道中合羽、袴、袴、水干、直垂等に使われていた布が、明治以降は輸出用壁紙に生産の主体を移し、それも衰退すると共に、帯地や着尺の手織りに変化していった経過に関心があり、その勉強に行ってきたのでした。

それはさておき、中には繁茂してじゃまになっているクズをうまく利用できないかということに来ていた若い自治体職員もいらっしゃいました。結論から言えば、葛布に使うクズの蔓は厳選し、まっすぐに伸びた節のない若いものを一ひろ単位ぐらいに切って使います。だから、クズを根絶やしするようなことはありません。クズ退治には効果はないようです。

しかし、あの邪魔者のクズから美しい繊維が採取でき、布になることは驚きました。



上の写真は自分で採取したクズを発酵させ、水洗いして「葛苧（乾燥した靱皮 写真下）」にして2ミリぐらいの幅に裂き、それをつないだ（績んだ）いとを撚りのかからないようにまとめて「葛つぐり（写真上 糸を8の字状にまとめたもの、このまま杼に入れて織る）」までにしたものです。約300グラムの蔓から3グラムの糸が採れました。手間はかかりますが楽しい作業でした。
（守谷英一）